

盲ろう者はどうやって受
験するの！？

はじめに

障害のある学生は様々な受験上の配慮を受けながら大学受験等進学のための試験を受けることができる。盲ろう者の受験の現状とどのように進学して学んでいるのかを考える。

障害学生への受験への配慮

- ・ 点字解答
- ・ 代筆解答
- ・ 拡大文字の問題冊子
- ・ バリアフリートイレに近い試験室での受験
- ・ 座席を試験室の出入り口に近いところに指定
- ・ 拡大鏡等の持参を許可
- ・ 手話通訳士の配置
- ・ リスニングにおける音声聴取方法の変更または免除

など

障害学生の受験の現状・課題

2016年4月に「障害者差別解消法」が施行され、障害の有無によって受験を拒否することはできなくなったが、障害学生への受験上の配慮はまだ十分とは言えない。盲ろう者の受験は、**体制が簡単に整えられない、試験管や教員側にノウハウが全くない、入学しても受け入れられない**などの様々な理由で事実上拒否されることが多い。

森敦史さん



<https://youtu.be/uYB0wur7jC4?si=bJaji0NaQyzfKMTd>

森さんは大学院に進学し学んでいる姿が印象的であったが、大学受験の際は簡単にはいかなかったようだ。大学受験の際には、交渉しても受験上の配慮を受けられずに突き返されることが多かった。森さんは触手話でのコミュニケーションをおこない、大学側の理解を得て、通訳をつけて面接での受験をしている。

森さんは大学や大学院に進学してからも、常に触手話が可能な通訳者2～3人と一緒に授業を受けている。通訳に関わる経費は大学側が負担している。資料や教科書は点訳のものを使い、点字表示端末で読み書きしている。通学や日常生活は、学生ボランティアや大学の手話サークルの人のサポートを受けながら行っている。

筑波技術大学

視覚障害者・聴覚障害者のための大学

筑波技術大学は視覚・聴覚障害者であることが入学条件とするほど障害学生の学びを保障している。

以下の3つが存在する

- ・ 産業技術学部▶聴覚障害者のための学部
- ・ 保健科学部▶鍼灸や理学療法を学ぶ視覚障害者のための学部
- ・ 大学院▶森さんが通っている

ホームページ：

<https://www.tsukuba-tech.ac.jp/>

まとめ

盲ろう者への受験上の配慮はまだまだ課題が多いと言える。しかし、森さんのように配慮を受けながら進学したり、筑波技術大学のように障害学生を積極的に受け入れている大学があったりすることが分かった。盲ろう者にも進学の機会を保障する配慮を進めていく必要がある。

参考文献

- ・全国障害学生支援センター「大学における障害学生受け入れの現状 ～2017調査より受験編～（2019）」
「https://www.nscsd.jp/activities/DaigakuAnnai/pdf/Chosa2017juken_J105.pdf」（2024年1月14日閲覧）
- ・森敦史（2013）「ノーマライゼーション 障害者の福祉」
2013年8月号
「<https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/prdl/jsrd/norma/n385/n385007.html>」（2024年1月14日閲覧）
- ・僕は目が見えないし、耳も聴こえない。だからこそ「相手を信頼すること」が大切。盲ろう者の大学院生・森敦史さん
（2018）「<https://soar-world.com/2018/04/19/astushimori/>」（2024年1月14日閲覧）

- 独立行政法人大学入試センター 「令和6年度 受験上の配慮案内」
「https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r6/r6_hairyo.html」 (2024年1月14日閲覧)
- 国立大学法人筑波技術大学 「<https://www.tsukuba-tech.ac.jp/>」 (2024年1月14日閲覧)